



テキパキ通信

発行者：公明党豊島区議団一東池袋1-18-1区役所内公明控室

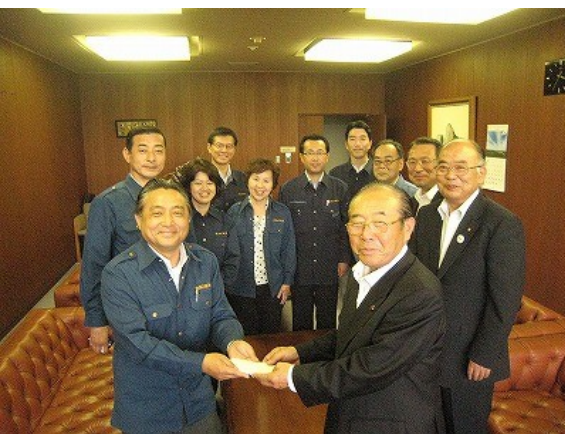
《木下ひろし連絡先》長崎3-16-6

宮城県・岩手県被災地お見舞い

木下ひろしと公明区議団は6月13日、豊島区と防災協定を締結している岩手県一関市にこの度の震災のお見舞いをし、公明区議団からの義援金をお届けしました。菅原市議会議長、公明一関市議の岩淵議員から一関市や隣接する陸前高田市気仙沼市の災害状況、復旧状況を伺うことができました。また、豊島区から一関市に災害派遣されている職員を激励しました。

これに先立ち、常磐自動車道で宮城県亘理町、岩沼市など名取川流域に降り立ち、被災状況を目の当たりにしました。

翌6月14日は豊島区民の家族で、気仙沼市の船舶事業者のご要望を伺うため、気仙沼大島に渡り、島内の被災状況を視察し説明を受け、ご要望を伺いました。甚大な津波被害の状況を目の当たりにして、被災地の方々の生活支援、街の復興にスピード感を持って取り組む必要性を実感しました。又、我が街、豊島区の更なる安全・安心の防災対策に取り組んでまいります。



一関市議会菅原啓祐議長(前列中)、牧野茂太郎副議長(前列右)、公明党岩淵優議員。

一関市議会公明党岩淵優議員(中)

謹啓 入梅の候、ますますご清静のこととお喜び申し上げます。
 このたびの東日本大震災に際しましては、多大なる義援金・寄附金をお寄せいただき、厚く御礼申し上げます。
 当市では、3月11日の地震発生に伴い災害対策本部を設置し、応急対策及び復旧・復興対策を実施してきたところで、3ヶ月を経過した現在、市外の被災地から避難された方が多数にのぼっており、又、市内の家族被害や道路及び農地被害等が極めて深刻な状況にあります。
 こうした中、市と致しましては、被災者の皆様の一日も早い安心・安全な生活を取り戻すべく、全市を挙げて着実に歩みを進めてまいりたいと考えているところであります。
 皆様からお寄せいただきました心温まる義援金・寄附金につきましては、被災された方々の生活再建や公共施設の復旧・復興対策のため有効に活用させていただきますので、今後とも皆様のご理解とご支援をお願いいたします。
 このたびお寄せいただきましたご厚情に対し、心儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のご健康とご発展をお祈りいたします。

謹白

平成23年6月

公明党豊島区議団 様

一関市長 勝部 修

一関市勝部市長からのお礼状

一関市では、市議会菅原啓祐議長、牧野茂太郎副議長、公明党岩淵優議員に、区民などの真心からの義援金を議長にお渡し、被災状況、災害支援について、様々なお話を伺いました。

一関市としては、約150億円の被害があったそうです。市内の復興と隣接する気仙沼市、陸前高田市の支援に全力を挙げているとのこと、一関市としては、3.11よりは4.7の余震による被害が深刻だったそうです。3日間の停電、市役所も企業も住宅も、ロウソクの生活をされたそうです。橋梁や道路の崩壊。ガソリン不足と、二重三重にご苦労が重なり、市民生活に大いに影響がでました。被災された住民の罹災証明が未だに50%。豊島区からの職員派遣は大変助かっているそうです。また、隣接する陸前高田市には一関市から十数名の職員が派遣されています。被災地同士の支援の話に、人的支援の方策が必要であることを強く感じました。

一関市の公明党岩淵議員は、お隣の陸前高田市が公明議員空白地のため、同市も担当され、壊滅的な打撃を受けた住民の生活支援に昼夜を忘れて奔走されたお話を伺いました。終了後、豊島区の職員が災害派遣で宿泊場所としている、松本荘に伺い、本区の職員がお世話になる旨、ご挨拶に伺いました。

被災地の現場に立って、マスコミで報道されていない、大変な状況にたいして、現場の生活者の声を的確に吸い上げる体制作りを痛感しました。

領 収 書	
公明党 豊島区議団 様	
年度	23 年度
会計	一般 会計
担当課	会計課

領収書番号	124814
金額	〇 円
内容	一関市災害義援金として 上記のとおり領収しました。
領収者印	110100 23.6.13 倉田 幸太郎 001
一関市会計管理者	
納入者保管	取扱者印

宮城県名取川沿線・亶理、岩沼市

宮城県白石蔵王ICから海岸線、常磐自動車道沿いの宮城県亶理、岩沼市に降り立ちました。津波の影響は本当にすさまじく、言葉にならない光景を目の当たりにしました。途中災害派遣の自衛隊車両や国土交通省のフラッグを掲げた、復旧支援車両が何十台も行き交っていました。

常磐自動車道路・亶理ICで高速に乗り、仙台空港IC、名取IC、仙台若林IC、仙台港北IC経由で、東北自動車道で一関市役所に向かいました。高速道路から右側の海岸線はとほろどころ、全くなにも無い状態。瓦礫の巨大な山が津波の恐ろしさ、自然の脅威を感じました。



宮城県気仙沼市・気仙沼大島

6月14日、一関市から宮城県気仙沼に向かいました。JR気仙沼駅を過ぎ、市役所あたりから魚の腐敗臭が……海岸沿いの漁業関連の建物の撤去作業のダンプがひっきりなしに行き交います。かつおの水揚げするところが新しく整備され水揚げの態勢が整ったようです。しかしながら、気仙沼市内海岸線は、壊滅的な状況です。

気仙沼大島に渡る船『ひまわり』の菅原船長にご挨拶して、11時発の大島行き船に乗船し、大島に渡りました。

菅原船長が避難している元タレント気仙沼ちゃんの民宿、くりこの社長が、浮き桟橋ごと大型フェリー2隻が陸上に打ち上げられた現場を説明して下さいました。3.11の大地震直後に菅原船長は20Mの津波に向かい沖に避難して船共々助かりましたが、大型フェリーは菅原さんより早く港に戻っていたにも関わらず、沖に避難する機転が利かず、ドッグごと陸上に打ち上げられました。大島の船は90%流され、菅原さんの船だけが、津波後の気仙沼市内と大島の住民の命綱となり、12人乗りの船に特例で40人乗船可能とし、無料で何百回と往復しました。現在大型フェリーは宇和島から提供されたものが運航していて、陸上に打ち上げられた2隻の大型フェリーを海に戻すには、約2億円かかるとの事でした。くりこの社長さんは『菅原船長は命懸けでひまわりを守った結果、島民の命を守った、大事なことは、金をかけるより、本気で復興を考える、知恵と勇気だ』と語られました。



【気仙沼大島のフェリーが浜に打ち上げられました】

【気仙沼市内の川に津波で流された屋根が残っています】

木下のTwitter好評！@Kinosan007 フォローして下さい。

【公明党無料法律相談のご案内】

毎月第1、第3木曜日、14時から

区役所4F公明控室 TEL 3981-1428

木下e-mail ; kinosan@t.toshima.ne.jp

きのちゃんブログ毎日更新中！

<http://kinosan.blog36.fc2.com/>

木下広携帯HPのQRコード⇒

<http://toshima.new-komei.net/kinosan//>

☆ご意見ご要望をお寄せ下さい

